

第2回卒業論文説明会

2013/12/03

実践真宗学研究科 1 回生

入江 楽

卒業論文体験談

【はじめに】

いよいよ論文提出まで、約1カ月となってきました。振り返ると、私自身も完成に向けて、色々と考えを巡らせながら、論文を書き進めていました。講義中にも論文のことを考えながら、何か使えそうなアイデアはないかと探し求めたものです。今回は、そのような自らの体験の中から、皆さんに少しでも役に立つようなアドバイスができれば、と思います。

【手順・書式に関して】

① 自分の書いた文章が不要だと思っても、削除せずに別に保存しておきましょう。一度不要だと思った文章でも、後から必要になってくるというのは、十分に有り得ることです。

② 書式の設定は、できるだけ早く済ませましょう。すでにやっている方はお分かりかと思いますが、定められた書式に設定するのは、意外と手間がかかるものです。また、ある程度書き終えた後に直してみると、思っていた以上に余裕が無かった、ということも考えられます。少なくとも1万字を超えたら、その時点で定められた書式に設定し直しましょう。

③ データのバックアップは、作業が終わるごとに、複数とっておきましょう。今までも、直前になってデータが全てとんでしまったというケースを見聞きしました。このようなときのためにも、必ず複数の USB メモリにバックアップを取っておいて下さい。

【内容に関して】

今回、皆さんに最もお話したいのが、「序論」の書き方についてです。当然ですが、序論は論文に含まれます。しかし、実際に卒業論文を書く際には、本論や結論を書くのに気が向くあまり、序論まで手が回っていないケースが散見されます。主審・副審の先生方は、論文を読まれる際には、まず序論から目を通されます。ですから、序論によって、受ける印象が大きく変わってくるのです。では、何を書けばよいのか、以下示していきます。

① 問題提起《最重要》

これが最も重要です。卒業論文の評価の基準にもあるように、「題目を具体的にテーマとして定式化できているか」、すなわちこれから論文として示していくテーマを、自分の言葉で説明することが必要です。問題提起なくしては、論文には成り得ません。

② 先行研究

自らの設定したテーマについて、それまでにどのような研究がなされてきたか、その中で問題となってきたのは何か、といったことを書いておきましょう。

③ 研究・考察の手順

自らの設定したテーマについて、どのような手続きを踏んで明らかにしていくのか、具体的には、自ら振り分けた章・節・項ごとに何を示していくのかを簡潔に書きましょう。

④ 意義

自らの設定したテーマについて考察を進め、それによって結論に至るという一連の流れが、真宗学という学問において、一体どのような意義を持つのか、ぜひ書いてみて下さい。

これらの内容を、正確に・シンプルに・簡潔にまとめましょう。あくまで序論ですので、細かく書く必要はありません。長すぎると、かえって冗長な印象を与えてしまいます。

(補足)

卒論にまだ手がついていない、一文字も進んでいないという方、とりあえずは、まず序論を書いてみて下さい。おそらく、1・2ページは埋まるかと思います。少しでもページが埋まれば、書きあげられる自信というものが湧いてきます。

【おわりに】

提出期限がせまる中、これからは毎日少しでもいいので、論文を書き進めていって下さい。皆さんの中には、就職活動や教育実習、その他様々な事情で、これまで卒業論文作成が思うように進まなかったという方もおられるでしょう。また、途中で行き詰まり、この先どのように進めていくべきか、迷っている方もいらっしゃるかと思います。そのような場合は、まずは担当のゼミの先生や先輩方に相談しましょう。的確な指摘をいただくことで、やるべきことが明確になります。そして、もう一つ大切なのは体調管理。体調を崩してしまうと、時間的にも大幅なロスになります。無理をし過ぎず、計画的に進めていきましょう。あとは自分次第、どうせやるのであれば、自ら納得のいく論文を書きましょう。